

住民の避難行動に結びつく情報提供の充実を目指して

R1.6.12

～第1回「近畿地方メディア連携協議会」を開催しました～

～近畿地方整備局～

近畿地方整備局・大阪管区気象台・マスメディアで構成する『近畿地方メディア連携協議会』を令和元年6月12日に発足しました。第1回協議会では、昨年の7月(西日本)豪雨で発生した甚大な被害が再び繰り返されることのないよう「逃げ遅れゼロ」を目指して、国や府県・自治体が発信する防災情報等を「住民自らの命を守るための行動」に結びつけるため、どのようにすれば切迫感を伝えることができるか、住民一人一人の防災意識向上を図るための取り組みについて議論しました。

第1回近畿地方メディア連携協議会の概要

- 日 時: 令和元年6月12日(水) 15:00～17:20
- 場 所: 大阪合同庁舎第1号館(近畿地方整備局)
- 参加団体: 10社(五十音順)
 (株)アドバンスコープ／大阪放送(株)／(株)京都新聞社
 (株)神戸新聞社／(株)産業経済新聞社 大阪本社
 (株)テレビ和歌山／(株)奈良新聞社、
 日本放送協会 大阪放送局／びわ湖放送(株)
 (株)福井新聞社
- 議 事: ①「住民自らの行動に結びつく水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト」の取組 【情報共有】
 ② 近畿地方整備局における水害・土砂災害情報の提供・伝達等の取組 【情報共有】
 ③ 平成30年7月豪雨等における各団体の取組状況と課題について 【意見交換】

論点①
より分かりやすい情報提供のあり方は？

論点②
住民に切迫性を伝えるために何ができるか？

論点③
情報弱者に水害・土砂災害情報を伝える方法とは？

近畿地方整備局職員による解説報道デモの様子



各団体の防災情報に関する取組状況・意見

<テレビ、ケーブルテレビ>

- ・より身近な地方のアナウンサーがいつもと違って切迫した状況で伝えることが避難に結びつくと考え。
- ・テレビの特性を活かして河川カメラの情報や一般の人が送ってくれる動画を効果的に伝えていきたい。
- ・専門家や地域の防災士に直接リアルタイムで解説してもらおうという取組を実施したい。
- ・行政、団体が実施する訓練にメディアが現場で報道連携する「メディア連携報道訓練」を実施している。
- ・心理的なことも踏まえて国民を守るための勉強会を国主催で開催してもらいたい。
- ・地域防災コラボチャンネルの促進はありがたいので今後詳しく教えてほしい。

<ラジオ>

- ・パーソナリティとリスナーの信頼関係があるため、パーソナリティが台風情報を話した方が身近に感じてもらえる。
- ・情報が多すぎて報道側としては取捨選択が大変。

<新聞>

- ・平成30年7月豪雨の時、新聞で雨の降り始めから大雨に警戒を呼びかける記事を掲載したが、なかなか伝わらなかったため、「大雨時には水路に近づかない」などの注意の徹底をわかりやすく呼びかける記事の充実が課題。
- ・極めて低い避難率に対して、住民にどのように情報のアプローチをかけるかが課題。
- ・二次元コードを情報提供してニュースサイトに戻ってくるのか。メディアとしては自社のサイトに戻ってきてほしい。
- ・情報過多になり、どの情報が一番必要なのかかわかりにくい。
- ・7月豪雨の時に緊急記者会見の案内をFaxで通知されたが、デジタルだけでなく紙媒体にすることでより切迫感が伝わり、重要だとわかることもある。



河川調査官



協議会の様子

【問合せ】国土交通省近畿地方整備局 水災害予報センター
 〒540-8586 大阪市中央区大手前1-5-44 TEL 06-6942-1141(代表)



住民自らの行動に結びつく
水害・土砂災害ハザード・リスク
情報共有プロジェクト

住民へ「切迫感」のある情報を伝えるために

R1.9.19
9.20

～第1回「近畿地方メディア連携協議会 意見交換会(共同勉強会)」を開催しました～
-近畿地方整備局-

- 近畿地方整備局・大阪管区气象台・各メディア報道関係者で構成する「近畿地方メディア連携協議会」での取組の一つとして、『近畿地方メディア連携協議会意見交換会(共同勉強会)』を令和元年9月19日及び9月20日に開催し、計29名の報道関係者(記者、キャスター含む)にご参加していただきました。
- 【災害情報の「充実」から「抽出」へシフトチェンジ】をねらい、個人にとって必要な情報を容易に取得できるツール開発について意見交換し、水害情報に関する基礎情報や気象情報の活用等を紹介しました。

第1回近畿地方メディア連携協議会意見交換会(共同勉強会)の概要

- 日 時: 令和元年9月19日(木) 10:00～12:00
- 場 所: 大阪合同庁舎第4号館(大阪管区气象台)
- 参加団体: 10社(五十音順)

ABCウェザーセンター／朝日放送テレビ(株)／大阪放送(株)
大阪放送(株)／関西テレビ放送(株)／(株)テレビ和歌山
奈良テレビ放送(株)／(株)日本経済新聞社／日本放送協会
大阪放送局／日本放送協会 奈良放送局／(株)毎日放送
(記者、キャスター含む) 計19名

- 議 事: ①河川情報等について 【情報共有】 ②気象情報等について 【情報共有】
③個人にとって必要な情報を容易に取得できるツール「マイ・水害情報(仮称)」の作成に向けて【意見交換】
④共同会見について 【意見交換】

- 日 時: 令和元年9月20日(金) 10:00～12:00
- 場 所: 大阪合同庁舎第1号館(近畿地方整備局)
- 参加団体: 8社(五十音順)

(株)朝日新聞社／関西テレビ放送(株)／(株)産業経済
新聞社大阪本社／(株)奈良新聞社／日本放送協会
大阪放送局／びわ湖放送(株)／読売新聞大阪本社
讀賣テレビ放送(株) 計10名
(記者、キャスター含む)

個人にとって必要な情報を容易に取得できるツール「マイ・水害情報(仮称)」についての意見

- このようなワンストップの情報ツールがあると、講演等で「一般の方にサイトを見てください」と言いやすくなる。
- 完成した際は報道各社向けに横並びでキャンペーンを張ればよい。
- 一般向けとプロ向けを作ってもらえるとありがたい。
- プロ向けには入力した箇所で過去にどのような災害が起こったか調べられるとよい。
- 高齢者の方は、スマホによるネット情報よりも、テレビや新聞から情報を入手している高齢者が多い。
- 複数の地域登録ができるようにし、遠方の家族へ情報を伝えられるようにしてほしい。
- LINEで知り合いに共有できる機能を付けてみてはどうか。
- ラジオでもお知らせしたい。
- 高齢者向けにガラケーにも対応できるとよい。
- 情報を絞って音声でも聞けるようにしてほしい。
- どこが氾濫したかリアルタイムの情報があつた方がよい。
- 避難所の位置と避難所までの情報があつた方がよい。
- ツールのデータを元にどう判断したらよいか、わかるようにしてほしい。
- パソコンでも使うことを想定するとスマホでは使い勝手が悪くなる。
- 既にある情報ツールで出していない整備局らしい情報を出すべき。
- 報道関係者には、使いやすいツール。
- 関係ないと思っている人に使ってもらう方法が課題。
- 中小河川や内水氾濫等にも使えたらよりよい。

意見交換会(共同勉強会)の様子



共同会見についての意見

- 共同会見の実施タイミングの基準をあらかじめ共有してもらえると、切迫感が理解できる。
- 異常洪水時防災操作の可能性や水位予測の感触などを教えてもらえると切迫感が分かり、住民への伝え方も変わる。
- 新聞からすると発行時間の関係もあり、今回の共同会見のタイミングでは遅い。
- 過去の被害等具体事例を教えてください。
- 河川管理者が感じているリスクを精度が低くてもよいので教えてもらえるとありがたい。

近畿地方整備局と大阪管区气象台による共同会見(8月15日実施)



【問合せ】国土交通省近畿地方整備局 水災害予報センター
〒540-8586 大阪市中央区大手前1-5-44 TEL 06-6942-1141(代表)

住民自らの行動に結びつく
水害・土砂災害ハザード・リスク
情報共有プロジェクト

第1回「近畿地方メディア連携協議会 意見交換会(共同勉強会)」説明資料

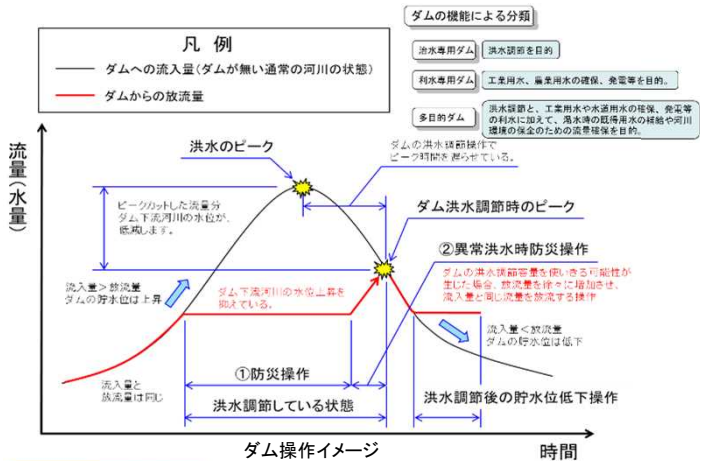
●マイ・水害情報(仮称) ※試行版: 水害に関する情報のみ

災害情報の「充実」から「抽出」へのシフトチェンジを観点に住民自らが必要な情報を取得できるツールの開発(試行版: 水害に関する情報のみ)に向け意見交換を実施。



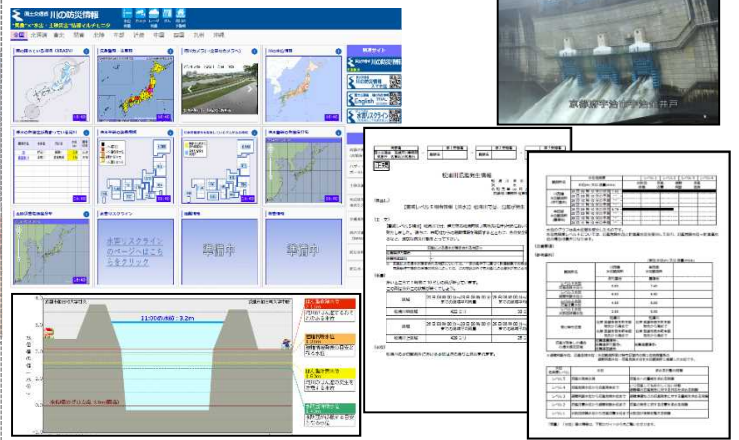
●ダム

ダムの異常洪水時防災操作等について説明。



●川の防災情報

『川の防災情報』で扱われる防災気象情報や河川に関する用語等について紹介。



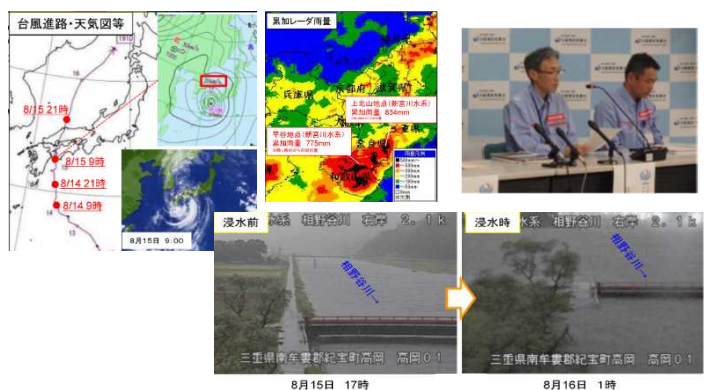
●マイ・タイムライン

自分のいのちは自分で守る。身の回りの川の氾濫に対するリスクを知ってもらうためのツールを紹介。



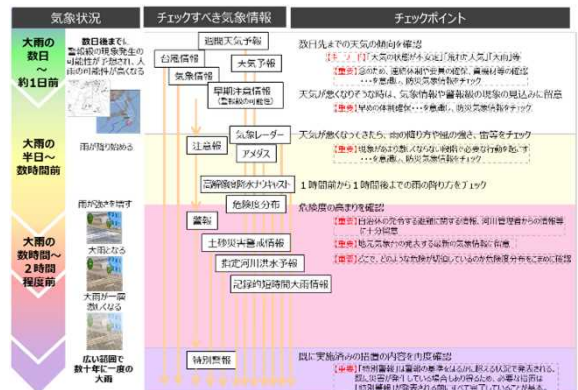
●第10号台風

台風第10号に伴う大雨による近畿管内の災害情報(出水速報)及び、気象台との共同会見について報告。



●気象情報

近年の気象災害と防災気象情報改善の経緯や段階的に発表する防災気象情報について説明。



意見交換会説明資料 ⇒ https://www.kkr.mlit.go.jp/river/iinkaikatsudou/mediacooperation/kinki-media_cooperation_meeting_firstdiscussion.html

令和元年台風第10号出水速報 ⇒ https://www.kkr.mlit.go.jp/news/river/disaster/R1_typhoon10.html



住民へ「切迫感」のある情報を伝えるために

R2.1.18

～近畿地方メディア連携協議会『現場視察会』を開催しました～

～近畿地方整備局～

- 近畿地方整備局・大阪管区気象台・各メディア報道関係者で構成する「近畿地方メディア連携協議会」での取組の一つとして、『現場視察会』を令和2年1月18日に開催しました。
- 普段は目にする機会の少ない様々な河川管理施設を視察していただくとともに、淀川水系の変遷や治水システム、これまでの治水対策や防災に関する取組などについてご説明しました。

近畿地方メディア連携協議会現場視察会の概要

- 日時: 令和2年1月18日(土) 9:00～17:00
- 参加団体: 7社(五十音順)
朝日新聞社/ABCウェザーセンター/日本放送協会
大阪放送局, 天津放送局, 奈良放送局/関西テレビ
放送(株)/ (株)毎日放送 (記者、キャスター含む)等
計17名
- 視察場所: 西島地区スーパー堤防、毛馬排水機場
さくらであい館、嵐山地区、日吉ダム

日吉ダム

■説明概要

- 日吉ダムの歴史と経緯、施設概要と操作方法等を説明。
- 平成30年7月豪雨では、異常洪水時防災操作を実施。嵐山地区では、これまでの河川整備と日吉ダムの洪水調節により、約1.5mの水位低減効果があったと推測。

■メディア関係者の感想

- ダムの事前放流などにも気象予測が使われるので、気象予測の精度向上が重要と感じた。



西島地区スーパー堤防

■説明概要

- スーパー堤防は、まちづくりと一体的に整備しており、通常の堤防と比較して幅が広いこと、越水による堤防決壊を防ぐことができる。
- 盛土に合わせて地盤改良を行っているため、地震にも強い堤防であり、災害時の避難所として活用可能。

■メディア関係者の感想

- スーパー堤防の災害に強い機能、まちづくりと一体的に進めるために事業期間が長期に渡ることの理解。



視察場所



嵐山地区

■説明概要

- 桂川の嵐山地区は、頻りに浸水被害が発生しており、早期の治水対策が求められている。
- 地元等の合意形成が諮られ、景観に配慮した可動式止水壁等の治水対策が決定。
- 嵐山地区改修の進捗に伴い、上流亀岡地区の改修が促進。

■メディア関係者の感想

- 景勝地の治水対策における景観配慮や地元合意等の重要性を認識した。



毛馬排水機場

■説明概要

- 毛馬排水機場は、高潮や洪水から大都市圏を守る治水上、重要なインフラ施設の一つ。日本一の排水能力を有しており洪水時には大阪市街地を守っている。
- 過去最高潮位を記録した平成30年台風第21号の襲来時には、大阪府三大水門、陸閘閉鎖と合わせて排水機場の稼働によって、高潮による大阪市街地の浸水被害を回避。
- 毛馬閘門の役割や仕組み、砂利採取業者等の船の日常的な活用状況。

■メディア関係者の感想

- 大がかりな施設で治水がコントロールされていること、歴史的に大阪の人たちがその都度最善の対策を取り、治水と向き合っていたことが勉強になった。



さくらであい館

■説明概要

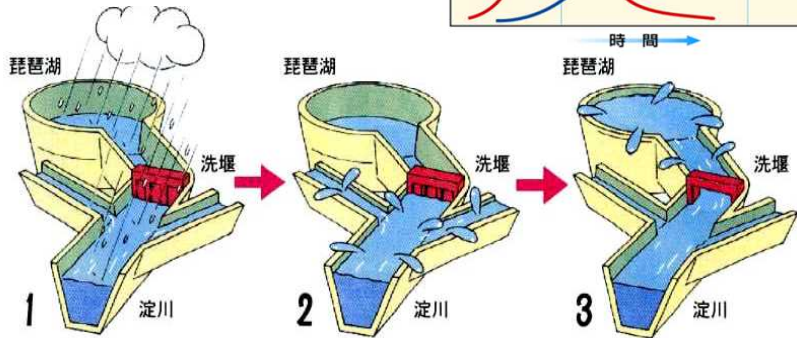
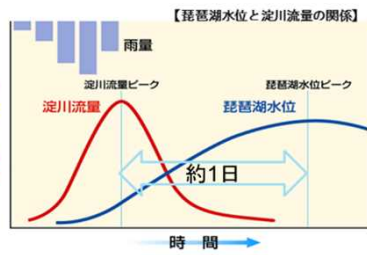
- さくらであい館は、桂川、宇治川、木津川が合流した三川合流部地域の自然・歴史資産を保全しつつ、地域を活性化することを目的として整備(平成29年3月)。
- さくらであい館の展望塔では、桂川の堤防引堤、木津川の影響が及ばないために背割堤整備の改修経緯、三川合流部・巨椋池の地形変遷等。



車中説明

説明概要

○琵琶湖水位と淀川流量の洪水ピーク時差を活用した淀川水系の治水システム



大雨で淀川の水位が上昇し始めますが、琵琶湖ではまだ水位の上昇はありません。

淀川の流量がピークになっても、琵琶湖の水位はほとんど上昇していないので、洗堰からの放流量を制限しています。

淀川の流量が減りはしめる頃、琵琶湖の水位は上昇を続けているので、洗堰を全開して湖の水位を上げます。

○令和元年第台風19号等における近畿地整TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊) JETT(気象庁防災対応支援チーム)の活動紹介



参加者の感想

【視察箇所や施設に関する感想】

- 実際にスーパー堤防の現場を見て、現場がどうい場所、溢れたり、場合によっては切れたりといったことを想像することで、規模感がどういものか、住んでいる人からしたらこういう感じで日々堤防の高さを見ているのかとリアルに感じることができ、今後の情報の伝え方に活かしていければと思う。
- 堤防の脇で川を見て暮らしている人は洪水を考えることはあると思うが、川から離れて暮らしている人は淀川の支川でどうい影響があるのか、それが流域全体の中でどうい位置づけになっているのかなどを真剣に考えないといけないと感じた。
- 毛馬排水機場には大がかりな施設があり、治水がコントロールされていること、歴史的に大阪の周辺の人たちが、その都度最善の対策を取りながら、治水と向き合っていたことが勉強になった。
- これだけ大がかりな設備があつてコントロールしている中でそれを上回る災害が発生しているということを考えると、やはり本当に大雨が発生しているということを、我々も伝える上で危機感を視聴者と共有しないといけないと感じた。
- 特に嵐山の治水が進まないと亀岡地区の堤防を直せないというのが印象深かつた。また、嵐山が景観地区ということで景観を考えずに工事はできないということも考えさせられた。
- ダム of 事前放流や水門の開閉操作などにも気象予測が使われているので、気象予測の精度をもっと上げていかなければいけないと思った。

【淀川水系の変遷や治水システムに関する感想】

- 昔の考え方で作つた堤防から、今の堤防の形にどんどん変わっているということが勉強になった。
- 淀川も昔はばらばらに流れていたが、掘削など改修を進めてきた結果であること、自然と思っていたものが人工的だつたということに驚いた。
- 現場や動画を見せて戴いたことで、災害時の緊迫した状況を具体的にイメージすることができた。
- 川が一つのシステムとしてコントロールされていることを改めて実感することができた。
- 水系を一体として管理していることが非常によく分かつたし、複雑であることも分かつた。
- 気候変動による災害の甚大化について、このシステムをどう考えていったら良いのか、私たち自身もちゃんと考えていかなければいけない。

【現地視察を踏まえた今後の情報発信のあり方等に関する感想】

- 災害時は上流から下流を眺めながら、どうい報道ができるのかを考えていきたい。
- 伝え手として出水期の時期には、一人ひとりに情報の重大性などをリアルタイムに伝えていく工夫をしていきたい。
- 住民の方々へ行動を促す伝え手の立場として、この情報の意味、情報ができるに至つた過程、どうい操作をダムや河川管理者の方がされているのかそれを知つた。
- これからは、いわば伴走者として、今こうい状況だからこうい操作をしていて次にはこうい懸念があるんだと分かつた上で皆さんにこうい意味ですよとお伝えできる技術者としての解説者になりたいと感じた。そのためにももっと川のことを勉強しないといけないと思った。
- 雨が川に流れ込んできて、ダムに集まって、ダムでどうい操作をして下流に流れて、人間が頑張る部分の操作や人間が堤防を造つた部分など色々対策することで被害が減つたり、被害が起きてしまつたりといったことがあるということを知らずして、この川は溢れそうと言いたくない。もっとしっかり勉強をしていきたい。
- 今年度は川の防災情報も参考にさせてもらったが、テレビでの限られた時間の中でしっかりとサイトの紹介できなかったのが、次の出水期ではどうい風に伝えられるのかを考えていかなければいけない。
- 今後、近畿の全部の水系を見てみたい。

毛馬排水機場(集合写真)



日吉ダム(集合写真)



【問合せ】国土交通省近畿地方整備局 水災害予報センター・河川計画課
〒540-8586 大阪市中央区大手前1-5-44 TEL 06-6942-1141(代表)